

園芸学科通信

第19号

「ニュースポーツ大会」を開催  
交流の輪の中に



滋賀県レイカディア大学米原校で学ぶ39期園芸学科生は、各年度前期と後期履修計画に基づき、必修講座及び選択講座によって、2年間の学生生活を過ごしてきます。

米原校では、「園芸学科」の他に「北近江文化学科」と「健康づくり学科」がありますが、必修講座では各自学習する場がありますが、お互いの交流を深める場がありません。そのため「ニュースポーツ」とレクリエーションゲームを通じて、お互いの交流を深めようとする。この大会が開催されました。

この大会の開催について、配布された冊子には①、スポーツ、レクリエーションゲームを通じて学科を超えた仲間との交流を図る。②、参加することの楽しさや分ち合う。③、ニュースポーツを体験・理解し、地域活動にも役立てる」と書かれています。

4月19日(木)、滋賀県立文化産業交流会館イベントホールは、「ニュースポーツ」&レクリエーションゲーム、交流の輪の中に」の合言葉で、ニュースポーツ大会の開催を待つ、第39期生と第40期生及び関係者が放つ熱気に包まれていました。



囲碁ボールに取り組む

ニュースポーツ大会は、参加者全員の入場行進から始まり、進行中は園芸学科39期、40期の順序で始まり、北近江文化学科、健康へのり学科の39期、40期と続きました。39期生、同様に、一番に行進する。39期生、同様に、行進曲に合わせて、手、三九良念、に因みきれいな桜の枝、造花、持ちこたえ入場行進に臨みました。入場行進を終った後は、学生時代に経験して以来の、懐かしい体験であると共に、学生生活思い出が貴重な経験でした。

開会式は、39期北近江文化学科の梅田さんの開会宣言で始まりました。校歌斉唱の後、39期健康づくり学科の山根さんの開会挨拶、徳本文化産業交流会館長の来賓挨拶、瀧本指導員の事務局長挨拶と続きました。選手宣誓は、39期及び40期園芸学科で学び、須田選手が声高らかに力強く行われました。

西野さんによるスケジュール説明があった後は準備運動が。スポーツを行う前には準備運動が必要であり、39期健康づくり学科の河津陣太の巧みにより40期で行われました。



交流の輪



午前中に行われた競技の様子「キンボール」・「囲碁ボール」・「公式輪投げ」・「バトンク」



レイカディア大学・米原校

ニュースポーツ大会で採用した競技種目に関して、種目それぞれに公式ルールを決めて採用しました。キンボールは、大きなボールを交互にヒットとレシーブを繰り返します。「バトンク」は、ボールをヒョット(目標球)に近づけるように投じます。「囲碁ボール」は、囲碁盤に見立てたマットに、白と黒のボールをステッキで打って、碁盤の目に入れた数を競う。いずれも小さなボールを使うので、大きなボールも小さなボールに手こずる人が続出し、また、公式輪投げは、リング(輪)を2mと3m離れた投げ投げ台の投するゲームで、一見簡単そうに見えましたが、いざ競技となると力が入るのか、2mや3m先の投げ投げ台の取らないことが多く、意外と難しい競技でした。

午後からの最初の交流は、レクリエーションダンスです。39期健康づくり、体育委員のリーダーと39期チームの指導により行われました。全員が輪になり、「レイカディア讃歌」、日立の木(この木なんの木)の曲に合わせてダンス、学生時代にタイムスリップしたような感じとなりました。

レクリエーションゲームの体験は、2種目「ヒューマンサッカー」と「ボール運び」でした。ヒューマンサッカーは、じゃんけんを取り入れたゲームで負けは振り出しに戻るの何回も挑戦ができるが鉢巻(たすき)がもらえないのでゲームは勝てないという、じゃんけんの面白さを改めて体験すると共に、心地よい汗をかきことができました。

ボール運びリレーでは、初対面のパートナーと息を合わせて、2本の棒にボールを乗せ、ボールを落とさないように折り返し地点を回り、早くスタート地点に戻りリレーしていくゲームで、平衡感覚とスピード、そしてパートナーとの呼吸合わせが要求されるゲーム。最後は昨年好評だった「江州音頭」で。CDから流れる江州音頭に合わせた形で踊り、ニュースポーツ大会の閉幕となりました。文字通り、学年、学科を超えた仲間との交流を図ることができた一日となり、今回の交流体験を生かすために、今後の地域活動に取り入れ役立てたいものです。

選択講座・寄せ植えの笑顔  
ハンギングバスケットづくり  
ベチニアキユキ・セリウム  
ユウカイリー・アヒルムチ  
講師：南 敏孝氏

編集後記  
平成30年4月30日発行の「第39期園芸学科通信第19号」をお届けします。今月の記事の内容は、同じくニュースポーツ大会です。昨年経験した事柄でしたが、40期生の仲間と交流を図ることができました。体育委員のみなさまに敬意を払いたいと思います。また、ハンギングバスケットは、緑化という意義を授け、林道やフロンティア植生といった植への取組みや思いを新たにしました。(ハンギングバスケット作りを取り上げました)。  
園芸学科39期生が受講している後期選択講座の環として、「ハンギングバスケット」のハイクラスの実践を行いました。花壇やプランターに植え込みの応用、花壇やプランターで、自身の高さや体格的に花を飾ることができ、より華やかな雰囲気を演出することができます。吊り下げ式のバスケットは半球状になっているので、いろいろな角度から鑑賞することが特徴です。  
寄せ植えの実践は、4月26日(木)米原校の第2会議室で行いました。あらかじめ講師である南敏孝先生を用意していただいた材料「コナツハクアハイパー」・「植えるための用土」・ハンギングバスケットの花類を前に、ハンギングバスケットづくりの講義を受けました。  
①サイズをそろえるためのコツ、②選んだ土の条件、③植え替えを念入りに、④バスケットに鉢を乗せる際の注意、⑤水やりの方法、⑥バスケットを吊る際の注意、⑦乾土の利用、バスケットが落下しないよう注意すること。  
以上の内容を踏襲して寄せ植えの体験を行いました。この日用意された花は、ベチニアキユキ、セリウム、ユウカイリー、シユカバイン、アヒルムチ、ウエストリンク、コリウス、ロペリアの8種類でした。

